



令和2年12月14日
海上保安庁

海猿誕生50周年を記念して合同潜水訓練を実施 ～全国から潜水土が集結し、日頃の訓練成果を競います！～

潜水業務の本格的運用を開始してから50周年の節目である本年に、日々の訓練で培われた潜水技術を互いに発揮する場として12月16日、横浜海上防災基地において各管区を代表する潜水土22名が全国から集結し合同潜水訓練を実施します。

1 海上保安庁潜水業務運用50周年について

海上保安庁では、転覆や沈没海難における人命の救助などに迅速に対応するため、昭和45年6月から潜水業務の本格的な運用を開始し、本年で50周年という節目を迎えました。

運用開始当時、潜水業務にあたる海上保安官は「潜水員」と呼ばれていましたが、昭和61年4月には「潜水土」と名称を変更し、その後映画「海猿」のモデルにもなりました。

今回、潜水業務運用50周年の節目を記念し、全国から潜水土を集結させ合同訓練を実施することとなりました。

2 実施日時等

実施日時：令和2年12月16日（水）午前10時から午後5時まで

実施場所：第三管区海上保安本部 横浜海上保安部 横浜海上防災基地
（神奈川県横浜市中区新港1丁目2番1号）

参加者：全国の管区海上保安本部を代表する潜水土22名

訓練内容：本訓練では、泳力を競う『ドルフィン』、呼吸制限下での作業技術を競う『エアーステーション結索』、バディでの連携力を競う『荒天下水面ホーサー結索』等を実施します。

ドルフィン



ポンベのない状態やポンベを背負った状態でフィン装着して泳ぎ、個人やバディでのタイムを競う。

エアーステーション結索



息こらえをして、指定した場所に結索を行い、作業に要した時間及び結索の精度を競う。呼吸をする場合には、結索場所から7m離れた位置に設置しているポンベまで移動する。

荒天下水面ホーサー結索



波のある状況下で、転覆船と見立てた作業台に、ホーサー（船に係船する際の大型のロープ）を使用して結索を実施し、作業に要した時間及び結索の精度を競う。